

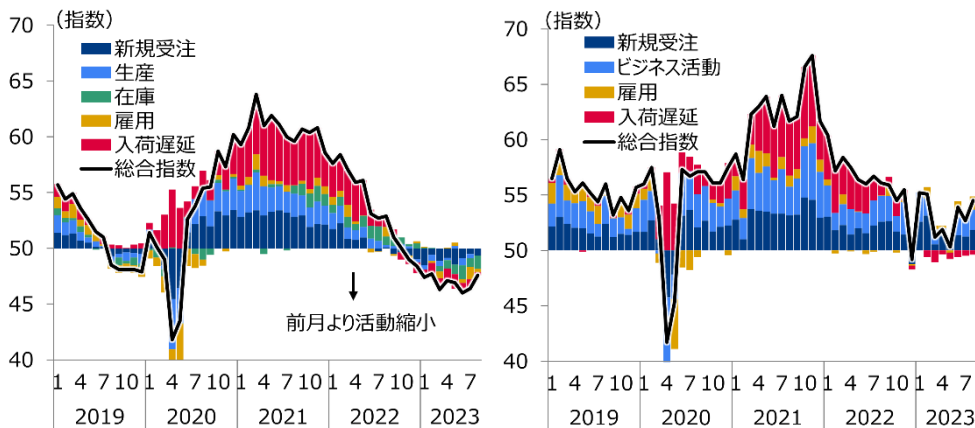
米国

ISM景況指数（2023年8月）

企業活動は鈍化継続、原油・資源高と米中対立激化リスクに要警戒

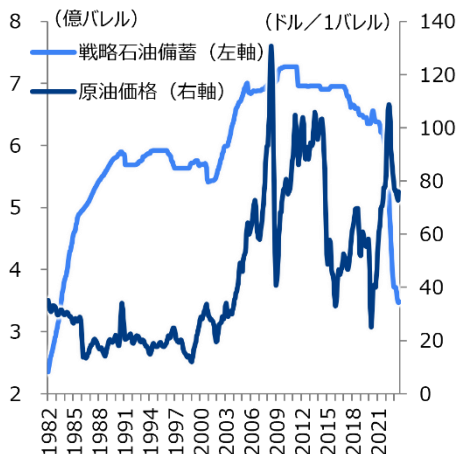
政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）



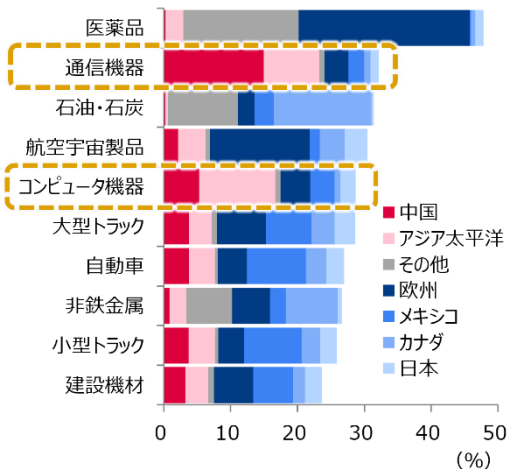
注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

2 戦略石油備蓄と原油価格



注：直近は23年8月。
出所：IMF、EIAより三菱総合研究所作成

3 中間投入資材の輸入依存度



注：中間投入資材の輸入シェアの高い製造業10業種。
出所：米国商務省、FRBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年8月のISM製造業景況指数は47.6と、前月から上昇したが、経済活動の拡大・縮小の境目である50を10カ月連続で下回った。非製造業は54.5と前月から上昇した。3月の銀行経営破綻以降、5月にかけて急低下したが、銀行不安の後退により、22年8月以降の緩やかな鈍化トレンドに回帰した（図表1）。
- 製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注が46.8と11カ月連続で50を下回っているほか、在庫も44.0と低水準で推移、需要鈍化が続いている。ただ、生産は50.0へ上昇、製造業の活動縮小は軽微にとどまっている。
- 非製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注（57.5）、企業の活動現況を示すビジネス活動（57.3）ともに高水準で推移し、全項目が前月から上昇した。また、業種別では18業種中13業種で活動拡大が示された。

基調判断と今後の流れ

- 企業活動は鈍化している。金融引き締めで製造業の活動縮小が長期化する一方、非製造業は旺盛なサービス消費が下支えし、底堅く推移している。
- 先行きのメインシナリオは、金融引き締め継続、融資基準厳格化が時間差を伴って企業活動を抑制し、製造業は50未満で横ばい、非製造業は50超で緩やかな低下を続けるとみる。もっとも、①原油・資源高加速、②米中対立激化の2つのリスクが顕在化した場合、企業活動は大幅に下押しされる恐れがある。
- ①について、サウジアラビア・ロシアによる原油供給制限措置の23年末までの延長が原油・資源高を加速させる恐れがある。ウクライナ危機以降、米国は戦略石油備蓄から石油放出を行い、価格上昇を抑えてきた（図表2）。結果、直近の備蓄は低水準にとどまり、今後の放出余地は限られる。実際、ISMのコメントでは、鉱業・専門サービス・紙業で、エネルギー高の加速が懸念されている。
- ②について、米中対立の激化でサプライチェーンの分断が加速した場合、中間投入資材を中国からの輸入に頼る業種を中心に活動が制限される恐れがある。特に、通信・コンピュータ機器は、投入材に占める中国・アジア太平洋からの輸入依存度が高く（図表3）、地政学リスクに脆弱な業種の動向に要警戒だ。